

平成21年7月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成21年7月の熱中症による全国の救急搬送の状況をとりとまとめたので、その概要を公表します。

1 背景

平成21年7月は、梅雨前線が本州付近におおむね停滞し、また、北日本では気圧の谷の影響を受けやすかったため、北日本から西日本にかけては曇りや雨の日が多い状況にありました。

気温は、北日本では前半は平年を上回り、後半は寒気やオホーツク海高気圧の影響により平年を下回りました。東日本から沖縄・奄美にかけては平年を上回る期間が長かったが、月のはじめは西日本と沖縄・奄美で、下旬に東・西日本でそれぞれ寒気や曇雨天の影響により一時的に平年を下回りました。

これらの状況のため、熱中症による救急搬送人員が昨年と比較して減少したものと思われま

2 ポイント

- 平成21年7月の全国における総救急搬送人員は394,846人で、そのうち熱中症による救急搬送人員は5,294人（総搬送人員の1.3%）でした。これは、平成20年7月の熱中症による救急搬送人員12,747人（総搬送人員の3.1%）に対し58%の減少となっています。

また、熱中症による救急搬送人員の総救急搬送人員に対する割合について平成21年7月と平成20年7月を比べると、45都道府県で減少しています。

- 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65歳以上）が2,201人（41.6%）と最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）が2,190人（41.4%）となっています。
- 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く3,338人（63.1%）、次いで中等症1,785人（33.7%）、重症116人（2.2%）の順となっています。また、死亡も8人（0.2%）報告されています。

※ 軽 症：入院を必要としないもの

中等症：重症または軽症以外のもの

重 症：3週間の入院加療を必要とするもの以上

死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

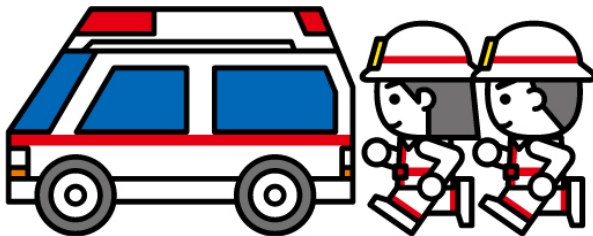
3 その他

- ・ 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。なお、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
- ・ 政府では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症の情報を提供しています。

環境省熱中症情報 http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/

【別添資料】

- [平成21年7月の熱中症による救急搬送状況（都道府県別）（別添1）](#)
- [熱中症による救急搬送比率（別添2）](#)
- [平成21年7月の熱中症による救急搬送状況（日別）（別添3）](#)
- [平成21年7月の熱中症による救急搬送状況（年齢別、傷病程度別）（別添4）](#)



（連絡先）

消防庁救急企画室

担当：森田補佐・梅澤係長・岡山

電話：03-5253-7529

FAX：03-5253-7539